

## 議事要旨

令和5年度 第1回千葉県移動性向上プロジェクト委員会

開催日時：令和5年9月1日（金） 10:30~12:00

開催場所：千葉国道事務所 202 会議室

委員会出席	千葉工業大学 創造工学部 教授	赤羽 弘和（委員長）
	千葉県警察本部 交通部 交通総務課 調査官兼課長補佐	高戸 敦（代理）
	千葉県警察本部 交通部 交通規制課 管理官	坂田 洋一（代理）
	千葉県トラック協会 業務部参与（部長）	小出 寛（代理）
	千葉県バス協会 専務理事	成田 斉
	千葉日報社 クロスメディア局長	早乙女 謙司郎（WEB）
	千葉市消防局 警防部 警防課 警防係長	比佐 淳（代理、WEB）
	東日本高速道路 市原管理事務所 工務担当課長	戸田 洋和（代理、WEB）
	東日本高速道路 千葉工事事務所長	笹原 壮雄（WEB）
	千葉県 県土整備部 道路計画課長	横田 彰洋
	千葉県 県土整備部 道路整備課 副課長	佐々木 寛之（代理）
	千葉市 建設局 道路部 道路計画課 広域道路政策室長	松崎 暁（代理）
	国土交通省関東地方整備局 首都国道事務所 副所長	三屋 竜一（代理、WEB）
	国土交通省関東地方整備局 千葉国道事務所長	藤井 和久

### ■「2. 今回委員会の審議内容」について（資料1 pp.6）

#### 事務局説明

- ・前回委員会での主な指摘事項である「交通需要の調整（TDM 施策）の検討」及び「今後の渋滞対策の進め方」における協議事項に関して、対応方針の概要を説明。

### ■「4. 渋滞対策箇所の効果確認・主要渋滞箇所の見直し」について（資料1 pp.8-13）

#### 事務局説明

- ・国道6号松戸隧道交差点での対策実施効果の確認結果や主要渋滞箇所におけるモニタリング結果について説明。
- ・全てのモニタリング結果を確認し、主要渋滞箇所からの除外箇所はないことを説明。

#### 委員長、委員意見

- ・本委員会は移動性向上の観点ではあるが、今回は安全性も向上したとの報告もあった。渋滞時の走行台キロあたりの事故発生率は非渋滞時よりも高いという研究結果もあるため、移動性向上に加えて安全性向上の視点も考慮していただきたい。
- ・ここ数年はコロナ禍の影響があったが、コロナ禍後に交通需要が戻ってきている可能性があるため、その影響も必要に応じて考慮した上でモニタリングをしていただきたい。
- ・主要渋滞箇所からの除外箇所でも再び指標に該当した場合の要因分析も必要。
- ・モニタリングの評価指標（旅行速度）とは、一般的には道路のサービス水準。これは対策による処理能力の向上や交通需要の増減で変動するため、この両面の要素を踏まえた対策評価が重要である。

### ■「5. 交通需要の調整（TDM 施策）の検討」について（資料1 pp.14~18）

#### 事務局説明

- ・八幡地区の取組状況として八幡地区の事業者団体にアンケート調査を実施していることを説明。
- ・今後はアンケート結果をふまえ、当該地区でのTDM 施策を検討していく方針とすることを説明。

#### 委員長、委員意見

- ・バス事業者としては、昨年度よりTDM 施策の実施協力に向け、調整可能な状況。引き続き議論させていただきたい。
- ・各社が個別に実施している取組を全体統括するとより効果的と思料。地区全体の各事業者取組状況を確認するところから始め、全体としての効果を最大限発揮できるように取組の調整を図ることが重要である。

■「6. 千葉県渋滞対策アクションプログラムの策定」について（資料1 pp.19～20）

事務局説明

- ・千葉県渋滞対策アクションプログラムの概要について説明。
- ・本委員会で主要渋滞箇所のモニタリングや対策効果把握等によるフォローアップで対策効果の最大化を図っていく旨について説明。

委員長、委員意見

- ・移動性向上と安全性向上の取組を両輪で連携していく旨をプログラム中に明示することが重要。
- ・本プログラムの趣旨を関係機関が理解のうえ連携を深めることが効果の最大化につながる。
- ・効果的な対応検討のために現状の実測データ把握は重要。
- ・この取組の内容や効果を一般の方にどうご理解・ご協力いただくのか、そのためにどのように広報すればよいか等について今後検討してはどうか。

以上